

平成30年度事業報告及び決算報告書

I. 総括

第73回国体では、天皇杯・皇后杯共に20位と大きく躍進した愛媛国体に比べ、少年種別においての得点の伸び悩みが顕著で、天皇杯38位、皇后杯39位に後退する結果となった。

第74回国体冬季スキー競技会では、昨年逃した天皇杯・皇后杯の獲得を目指したが、天皇杯、皇后杯共に3位となった。ただ、成年男子での活躍が目立ったのは今後の光明であった。

しかしながら、全体を通じて少年種別において活躍が乏しく、今年度の大きな課題であると考えることができる。本大会に向けて「チーム AKITA1000 点プラン」に掲げる強化対策を着実に推進しながら、目標達成を目指すこととなる。

社会人チームの支援では、バドミントン北都銀行松本・永原ペアがダブルス世界ランキング1位（2019年5月末時点）になるなど国内外で活躍が目立ち、東京オリンピックでのメダル獲得の可能性も感じられる。また、バスケットボールの男子JR東日本秋田チームも国体2連覇など活躍した。

アスリートの就職支援については、平成30年度目標としていた5人のマッチングが成立し、延べ11人が県内企業に就職した。求人側の採用意欲は高いものの、アスリートの就職意識が低いことから、大学生を中心に制度の周知徹底と企業情報の提供に努める。

生涯スポーツの振興では、総合型クラブ会員が地域交流会に多数参加し交流を深めたほか、4年連続、全国唯一、全市町村参加のチャレンジデーで約69万人の県民が運動・スポーツを行った。

その他、スポーツ指導者研修を実施し、指導者養成と資質向上を図った。

また、スポーツ少年団活動では、交流大会を開催し団活動の活性化を図ったほか、スポーツ少年団指導者育成のため、養成講習会や研修会を実施した。

II. 事業内容

《公1》競技スポーツ事業

【4,811千円】

1 第69回県民体育大会

- (1) 第69回県民体育大会の運営に必要な経費の一部助成
40競技 8,448名が参加

《公2》スポーツの競技力向上及び普及等に関する事業

【111,780千円】

1 競技力向上対策事業

(1) スポーツ医・科学の活用

スポーツドクター、トレーナーによるスポーツ医・科学的サポート

①国体選手・指導者のメディカルチェック及びサポート

メディカルチェック（身体検査・採血検査）延べ80名 [6月23日、11月24日]

②国体への帯同ドクターの派遣 本大会3名・冬季大会3名

③ドーピング防止講習会の開催

国体出場選手286名 [9月4日]

スポ少指導者・保護者53名 [平成31年2月23日]

- (2) 東北ブロック大会・国民体育大会への選手団派遣
- ①東北ブロック大会兼第45回東北総合体育大会（宮城県） [8月24日～26日（主会期）]
エントリー数 37競技 886名が参加
 - ②第73回国民体育大会本大会（福井県） [9月29日～10月9日（本大会）]
エントリー数 32競技と高校野球（軟式・硬式） 471名が参加
[結果] 天皇杯38位（787.5点） 皇后杯39位（450点）
*第73回国民体育大会報告会の実施 [11月26日]
 - ③第74回国民体育大会冬季大会
[スケート競技会 平成31年1月30日～2月3日]（北海道釧路市）
エントリー数 1競技 14名が参加
[結果] 天皇杯30位（12点） 皇后杯24位（12点）
[スキー競技会 平成31年2月14日～17日]（北海道札幌市）
エントリー数 1競技 87名が参加
[結果] 天皇杯3位（122.5点） 皇后杯3位（48点）
 - ◎冬季大会 [スケート・スキー競技会] 総合成績
天皇杯8位（144.5点） 皇后杯10位（60点）
- (3) 秋田県高等学校強化拠点校制度等による選手育成・強化
- ①秋田県高等学校強化拠点校
13競技、拠点校18校
拠点校の激励・戦力分析の実施
監督会議の実施 [5月14日]
 - ②中学生強化選手の指定・研修
選手の指定 [6月23日] 10競技 56名
[11月24日] 7競技 24名
資質・競技力向上研修（フィジカルトレーニング、宿泊研修等）の実施
[平成30年9月1日～2日、11月3日、平成31年2月23日]
- (4) テクニカルアドバイザー等による競技力向上
テクニカルアドバイザー（11名） ジュニア育成アドバイザー（2名）を配置
- (5) 社会人チームの支援及び強化
国体等で活躍する社会人スポーツ選手の競技力向上のための支援
- (6) トップアスリートの活躍を支援する取り組み
- ①現役アスリートが県内に就職し競技を続行できるようにするため、アスリート就職推進アドバイザーを配置し、求人・求職情報の収集とマッチングサポートを実施
（H30マッチング状況：斡旋者5名、求人8社 事業所登録：延べ31社）
 - ②本県出身の五輪・パラリンピック候補選手の支援（支援額122千円）

2 スポーツの普及・振興を図るための広報活動

- (1) 機関誌「スポーツ秋田」（年3回 各2,000部）
- (2) スポーツ関連情報をホームページで発信

3 加盟団体が実施したスポーツ事業への助成と日韓スポーツ交流事業の実施

- (1) 地域団体及び学校体育団体へ助成（39件）
- (2) 日韓スポーツ交流・地域交流推進
ソフトテニス交流 韓国選手団受入 [8月3日～8月7日 12名]

4 体育・スポーツの振興に顕著な功績があった者の顕彰

- (1) 秋田県スポーツ賞表彰 [平成31年2月27日]
功労賞3名、荣誉賞4名、特別栄冠賞2名、特別賞1団体、
生涯スポーツ賞(個人2名・団体)、国際優秀賞5名、国際奨励賞1名、
栄光賞(個人27名・団体19)、奨励賞(個人4名・団体1)
- (2) 人見スポーツ賞表彰 [平成31年3月27日]
個人の部 吉田 輝星(高校野球・金足農業高等学校3年)
団体の部 秋田県立金足農業高等学校野球部
- (3) 畠沢国体賞表彰 [平成31年3月27日]
個人の部 小野 祐佳(カヌースプリント競技)
団体の部 バスケットボール競技成年男子チーム(JR東日本秋田)
- (4) 辻ジュニアスポーツ大賞表彰 [平成31年3月27日]
個人の部 鏝野目 遼弥(水泳 競泳・山王中学校3年)
団体の部 第56回全国中学校スキー大会秋田県女子選抜リレーチーム

5 人見スポーツ傷害基金による傷害防止対策事業

研修会の実施 他
死亡弔慰金の給付 該当なし

6 競技団体が実施する競技会等の共同主催(後援)

共同主催 2件(県体、東北総体)
後援 76件

《公3》生涯スポーツ振興事業

【24,875千円】

1 総合型地域スポーツクラブの育成指導・助言

- (1) 総合型クラブの指導・助言
県内 74クラブ
- (2) 総合型クラブ連絡協議会事業
 - ①総合型クラブ地区交流会の開催
県北地区クラブ交流会：11月4日、参加者100名
県央地区クラブ交流会：9月30日、参加者94名
県南地区クラブ交流会：10月8日、参加者50名
 - ②総合型クラブ全県交流大会の開催：9月9日 三種町 参加者44名
10月28日 由利本荘市 参加者200名
 - ③クラブネットワークアクション2018の開催(日本スポーツ協会主催)
[11月24日～25日 青森県弘前市 参加者148名]
- (3) チャレンジデーへの参加促進
5月30日 県内全市町村で実施。 総参加者数 約68万9千人

2 スポーツ指導者養成のための講習会、研修会

- (1) 指導者養成講習会
[ソフトテニス：10月21日、11月3・4・10・11日、参加者17人]
- (2) 指導者研修会
[6月23日、秋田市 参加者48名]
[12月2日、秋田市 参加者61名]

3 スポーツ少年団の競技別交流大会、リーダー養成の研修会等の実施

(1) 交流大会

- ①第55回秋田県スポーツ少年大会（仙北市、7月27日～29日）
- ②第41回秋田県スポーツ少年団大会（各地、6月～平成31年2月、8競技）
- ③東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会（4県で開催、7月～3月、4競技）

(2) リーダー養成（随時開催）

- ①リーダー総会（秋田市、5月27日、指導者5名、団員5名）
- ②ジュニアリーダースクール（仙北市、7月27日～28日、71名）
- ③リーダー研修会
（秋田市、6月24日：指導者2名・団員14名、1月27日：指導者5名・員18名）
- ④リーダーのつどい（秋田市、平成31年3月21日、指導者8名、団員33名）

(3) 海外交流事業

- ①スポーツ少年団日独スポーツ交流事業
〔受入：7月26日～30日 大館市 9名〕

(4) スポーツ少年団モデル育成事業

上小阿仁村、五城目町、羽後町においてスポーツ交流会を実施

4 スポーツ少年団認定員養成講習会等、スポーツ少年団顕彰等

(1) 認定員養成講習会 7地区 1, 223名認定

(2) 認定員再研修会・育成母集団研修会 4地区 390名参加 （うち1回162名は、スポーツ少年団指導者研究協議会を兼ねて実施）

(3) スポーツ少年団顕彰事業

功労者15名、優秀指導者5名、優秀単位団6団、優秀母集団2団

(4) スポーツ少年団広報事業

- ①広報誌「スポーツ少年秋田」（年2回 各2,930部）
- ②「スポーツ少年団の現状」（年1回 1,050部）

《収益事業》

自主財源確保のための飲料水等販売事業

【5,779千円】

- 1 自動販売機事業（22施設 91台設置）
（事業収入 7,781千円）
- 2 スポーツ立県キャンペーングッズ販売事業（ポロシャツ等）
（事業収入 24千円）

Ⅲ. 組織運営及び財政確立

1 組織の充実

事務局の実施業務の効率的執行のため、課・担当を横断した業務遂行に努めたほか、強化委員による競技団体ヒアリングの実施や1000点プラン達成に向けての検討など強化対策に努めた。

2 財政の確立

(1) 賛助会員

- 法人75団体 個人29名
- ・受取会費 899千円

(2) 寄附金

法人91団体 個人35名

・寄附金総額 5,185千円

(3) 特別寄付金 1,000千円

秋田ノーザンハピネッツ（株）からの、バスケットボールの普及・振興等のための寄附

(4) 特定寄附金 180千円

五輪・パラリンピック候補選手を支援するため、チャリティーゴルフコンペを開催